

平成 31（令和元）年度 全国学力・学習状況調査の結果について

深秋の候、保護者のみなさまにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、4月18日(木)に実施された全国学力・学習状況調査の結果が国より届きました。以下に校内の分析内容を報告いたします。

尚、この調査結果については、学力の特定の一部分が表れているだけで、本校は、調査標本数が34と少ないので、表された数値は、数名の回答で大きく変わる可能性があることに留意する必要があります。

1. 調査概要

○平成31年4月18日（木）に全国すべての学校を対象に一斉に実施された。

※4月18日に実施した生徒数は国・公・私立の合計977,370人

○中学校3年生を対象に、国語・数学・英語の3教科。今年から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式となり、A問題 B問題の区別がなくなった。また、英語が加わり「聞く」「読む」「書く」（筆記）と「話す」（音声で録音）の2種類の調査が3年ごとに行われることとなった。

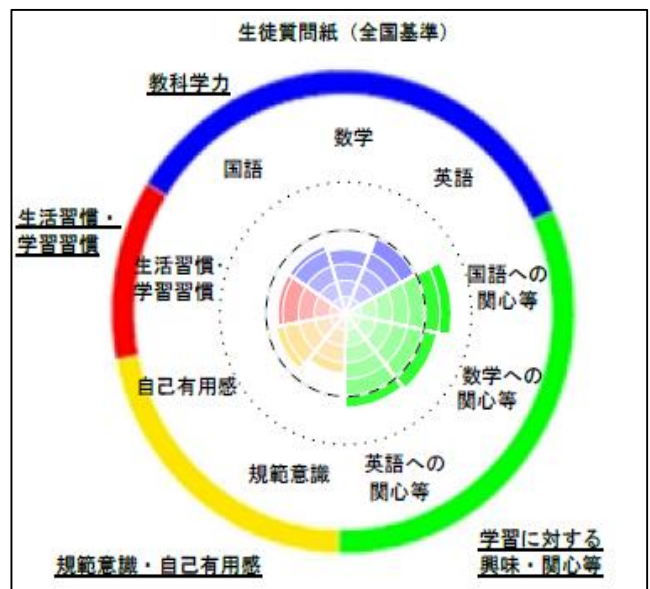
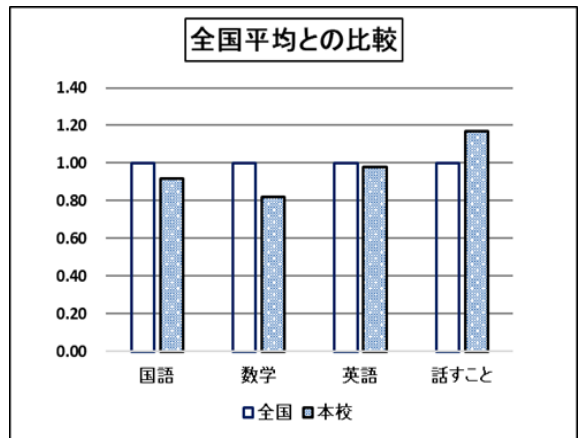
○生徒の生活習慣や学習環境等に関する調査や学校に対する質問調査も例年通り同時に実施された。

2. 調査結果

【学力調査結果の概要】

右グラフは全国の平均正答率を1として本校の平均正答率の割合をグラフで表したものである。今年度は問題の形式が変わったこともあり、例年までと単純には比較できないが、平成29年度より全国平均より上回っていた正答率が国語、数学とも0.1~0.2ポイント下回った。英語は筆記はわずかに下回ったが英語での応答を録音して調査する「話すこと」は約0.2ほど上回った。但し、今回調査環境が整わず対象から外れた学校もあり実施した学校数での平均である。

また、右下のチャートは教科学力、学習に関する関心・意欲・態度、規範意識・自尊感情、学習基盤となる活動・習慣について全国を基準として本校の値をチャート図に表したもので、---で描かれている円が全国基準である。後述の生徒質問紙の詳細結果からもわかるが、各教科に関して「勉強が好きか」「勉強は大切か」「授業はよく分かるか」の質問に対する「そう思う」などの肯定的な値は全国や府よりもはるかに高く、教科に関心を持って真面目に授業に向かう本校の生徒の姿を表している。しかし、「学校の授業以外にどれくらいの時間勉強をするか」の問いでは、約50%の生徒が「1時間未満」と回答している。（国30%府32%）また、生活習慣（朝食、就寝時間）に課題が見られる。一方、新聞や本を読んでいる生徒の割合も高く、地域や社会にかかわろうとする態度の生徒も多い反面、「いじめは絶対に許せない」、「ルールは守るべきだ」という意識はやや弱い数字になっている。



【各教科の分析】

国語

「自分の考えを書くこと」にあまり抵抗を感じない生徒が多いが、「読むこと」に課題がみられる

(1) 全体概要

今年度は、全国平均正答率や大阪府の平均正答率を下回っている状態である。

領域別に見ると、記述式の問題は全国・大阪府とほとんど差はなく、「書くこと」に対する抵抗感はさほどないと思われる。

一方「話すこと・聞くこと」「読むこと」が全国平均を下回っている。

評価の観点では「国語への関心・意欲・態度」が大阪府平均を上回っており、記述式の問題も大阪府平均よりも正答率が高くなっている点を見ると、国語学習に対する意欲は十分にあるので、「読む」力をつけることで、全体的に伸びる可能性があると思われる。

(2) 正答率による分析

①よくできた問題

全国・大阪府を上回っている項目として「1 (三) 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。」ことがあげられる。(記述式問題)

②課題の見られた問題

「1 (一) 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ。(選択式問題)」ことや「1 (二) 文章の展開に即して情報を整理し、内容を伝える。(選択式問題)」ことに特に課題が見られた。「自分の考えを持ち、表現する」ことに、苦手意識は持っていない傾向にあるが、選択式問題になると、正解率が落ちる。「文章の展開に即して情報を整理する」ことに課題もあることから、「読む」力の必要性がみられる。

数学

基本事項の定着に課題がある

(1) 全体概要

全国の平均正答率を下回っており、全国に比べ本校の生徒は基本的な学習内容についても実力として定着させることができていないという結果になった。授業において、既習内容を振り返る機会を多く設け定着させていくことが必要である。

(2) 正答率による分析

①よくできた問題 (正答率上位2問)

8(2) 「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する

9(1) 説明をよみ、 $6n+9$ を $3(2n+3)$ に変形する理由を完成する

②課題のあった問題 (正答率下位2問)

1 a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ

4 反比例の表から式を求める

英語

「聞くこと」「話すこと」にあまり抵抗を感じない生徒が多いが、「書くこと」に課題が見られる

(1) 全体概要

総合的に見ると、全ての領域における力は、全国平均並みであると言える。全国の状況と同じく、本校の生徒も「書くこと」に課題が見られ、特にまとまった英文を書く力が弱い。今後、「メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く〔領域：聞くこと 問4〕」「資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く〔領域：読むこと 問8〕」「2つの案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く〔領域：書くこと 問10〕」というように、どの領域においても、技能統合型の問題の中で、自分の考えや意見を書く力が求められる。このような問題に対する正答率は10%以下(全国もほぼ同じ)ではあるが、本校の生徒は無解答率が非常に低く、表現に誤りはあるものの、間違いを恐れず、自分の考えや意見を何とかして伝えよう(話そう、書こう)とする前向きな姿勢が身についている。このことは、力を伸ばす可能性のある大きな強みである。

(2) 正答率による分析

①よくできた問題

- 話すこと 1 (3) バスで登校する少年の絵を見て、交通手段を答える
 書くこと 9 (1)① 文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する
 9 (3)① 与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く② 正答率が全国と比較して10%以上 下回っている問題

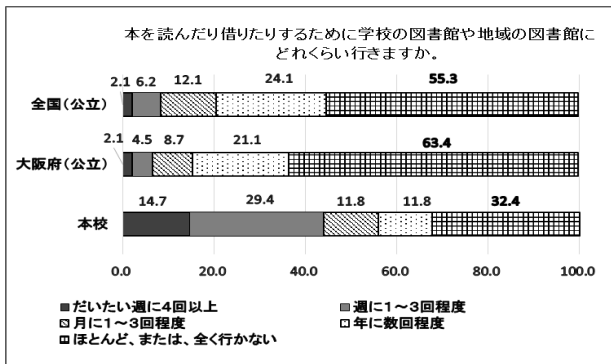
②課題の見られた問題

- 聞くこと 1 (3) 外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する
 話すこと 1 (1) カレンダーを見て、少女の誕生日を答える
 3 海外のテレビ局の要望に応じて、自分の将来の夢、またはやってみたいこと等を話す
 読むこと 5 (3) 月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する
 8 食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く
 書くこと 9 (2) ①、② 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く
 9 (3) ②、③ 与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く

【生徒質問紙の分析（良かった点について）】

① 自分自身について

読書や新聞等をとおして、好奇心をもって自分の世界を広げようとしている生徒が比較的多い



左のグラフは「本を読んだり借りたりするため、図書館にどれくらい行くか」についての回答をグラフにしたものである。本校の生徒（現3年生）は、大阪府や全国の生徒に比べ、「週4回以上」「週1～3回」という回答が多いことが分かる。

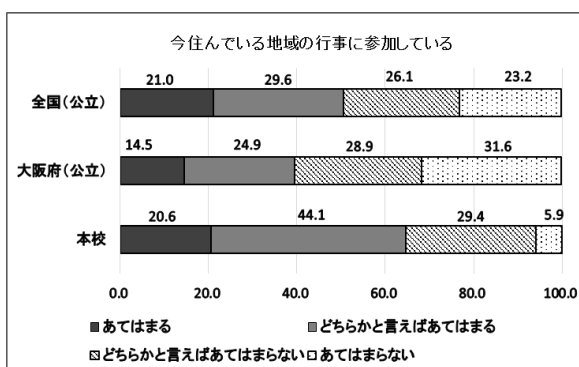
また「読書は好きであるか」という質問についても、「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」という肯定的回答が多い（本校73.5%、大阪府61.1%、全国68.0%）。

さらに「新聞を読んでいるか」や「外国の人と友達になったり、外国のことをもっと知りたいか」という質問についても同様に肯定的回答が多い（前者：本校23.5%、大阪府23.4%、全国12.7%。後者：本校73.5%、大阪府62.0%、全国62.4%）。

日頃から好奇心をもって、自らの世界を広げていこうという態度が育まれていると言え、学校等において学習を深めていくうえで、さらに将来情報を得ながら社会で生きていく際に重要な資質が育まれていると考える。

②地域・社会への意識と関わりについて

地域に関心を持ち、行事に積極的に参加する生徒が比較的多い



左グラフに表れているように、「地域の行事に参加している」について、本校の現3年生は大阪府、全国に比べ、肯定的回答が多い。

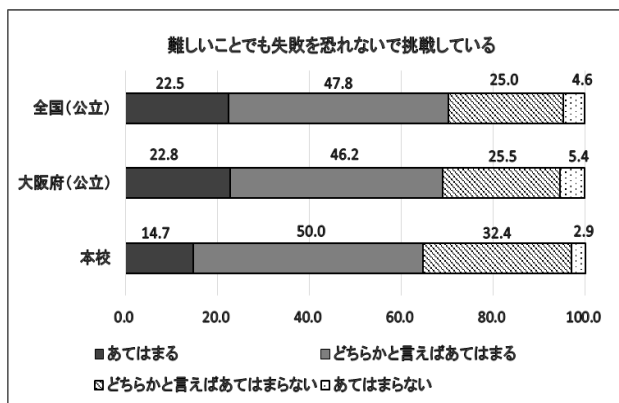
また「日本や住んでいる地域のことを外国の人にもっと知って欲しいか」については、「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」という肯定的回答が70.7%と、大阪府(54.7%)、全国(59.3%)に比べ高い結果を示している。

自らの住む地域に親しみと誇りを持って生活をしている姿勢がうかがえよう。

【生徒質問紙の分析（課題について）】

挑戦する姿勢や自己肯定感にやや弱さがみられ、生活習慣に揺らぎがみられる生徒が比較的多い

①自分自身について



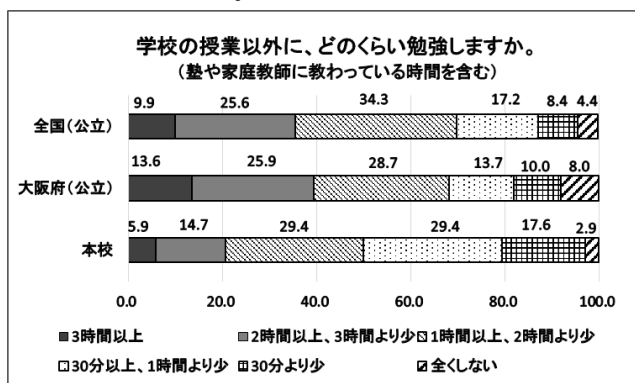
左は、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」かについてのグラフである。「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」という肯定的回答が大阪府や全国に比べやや少ないということが分かる。

また、「自分にはよいところがある」という質問については、「どちらかと言えばあてはまる」との回答（本校 58.8%）が大阪府（43.3%）や全国（45.1%）に比べてやや多いものの、積極的に肯定する回答（「あてはまる」）が大阪府や全国に比べ少ないという結果であった（本校 11.8%、大阪府 22.8%、全国 22.5%）。

②生活習慣等について

「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」については、「している」という回答がやや少ない結果であった（前者：本校 73.5%、大阪府 78.0%、全国 82.3%）（後者：本校 26.5%、大阪府 33.8%、全国 33.6%）。生活リズムが習慣化していない生徒が比較的多い状況と見て取れる。

また、下のグラフは学校以外での学習時間（塾や家庭教師に教わっている時間を含む）の回答結果を示したものである。



本校現3年生が、大阪府や全国と比較して「1時間より少ない（30分より少ない・30分以上1時間より少ない）」が多く、「2時間以上（2時間以上3時間より少ない・3時間以上）」が少ないという状況が示されている。大阪府や全国と比較して、全体として学校以外での学習時間が短いことが示されている。

学校以外で日々の学習時間を十分確保する生活習慣が定着しておらず、揺らぎがある様子である。

3. 今後に向けて

- ◆ 本校で確認している学習面でのつきたい力（①どんな変化にも対応できる基礎学力②自ら学ぶ姿勢③人の考えを取り入れながら、自分の考えを深め、表現する力）の育成に向かって「授業改善の推進事業」を中心に全職員一枚岩となって取り組む。
- ◆ 各教科、各教育活動において「主体的な対話的な深い学び」を視点とした授業改善のなかで、言語活動の充実を意識した授業づくりを行い、ことばの力の向上に取り組む。
- ◆ 地域や社会の中で自分を活かすという姿勢を大切にしながら、集団の中で挑戦し自己有用感を高め、人との違いを理解し合い、人を思いやり人と協力しあう心の育成に努める。

本校では学校裁量で少人数クラス体制や複数の教員の入り込みなど授業改善の工夫に取り組んできました。成果として、現在、日々の授業は落ち着いて、生徒たちは真面目に前向きに取り組んでいます。しかし、今回の結果から、生徒たちの学習に向かう姿勢について、受け身ではなく自ら工夫や方策を見出し、主体的に学びとっていく力を育成していかなければならないという課題を突き付けられました。また、大阪府が以前から啓発している「早寝、早起き、朝ごはん」の原点にも立ち返る必要があるとも感じます。小さいからこそ目が届くという強みも生かしながら、ご家庭との連携を大切にして教育活動を進めてまいります。今後ともご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。